

# 脊椎手術は怖いのか

整形外科部長兼診療放射線科部長

向山 啓二郎



今月はいつもの脊椎疾患についての話ではなく、脊椎の手術についてお話ししたいと思います。脊椎の病気で悩んでいる患者さんにとっては手術をしなければ治らないのか、といったことはとても大きな問題であると思います。外来でもなかなか保存治療（薬やブロックなど）でよくならない患者さんに手術を勧めると、とても驚かれることがあります。その時によく聞かれるのは、手術すれば完全によくなるのか。手術してしまったら歩けなくなったり、寝たきりになってしまうのではないか。背骨の手術なんて、体に負担のかかる大きな手術になるのではないか。などということです。

基本的に私たちが手術をお勧めするのは、原因がわかっていて「ここを手術すれば症状がよくなる」という見込みがあり、保存治療でよくならない、よくなる見込みが薄い、手術をしてでも症状を軽くしたいと患者さんが思ったとき、または早く手術しないと手遅れになる可能性がある場合です。そのために、レントゲンやMRI、脊髓造影などの検査やブロック治療での効果判断などでできる限り詳しい診断を行います。そのうえで患者さん一人一人に一番合った手術方法を決定します。脊椎の一部を削る、内視鏡で行う、金属の固定器具（インプラント）を入れるといった手術方法はその患者さんの症状や起こっている病態、さらには年

齢や生活環境も考慮したうえで必ず患者さんに説明するようにしています。現在では手術による体への負担を軽くするため内視鏡手術の導入、手術中の神経の損傷、負担を事前に回避するための神経のモニタリングシステム、ねじを使って固定する手術ではコンピュータによるナビゲーションシステムが広く使用されるようになり、脊椎手術の安全性は以前より高くなり、手術による体への負担は小さくなってきています。当院でも導入し、必要に応じて使用しています。医師をはじめ手術に携わるスタッフが安全第一で行えるよう、多様な患者さんの状態に合わせて準備し、治療を行います。

さて、「必ず治るのか」といったご質問ですが、これに対しては、症状がゼロにならない場合も多くありますが、術前よりもずっと良くなることが多いという説明をすることが多いです。腰や首が痛く、手足がしびれてしまっているが、切られるのがとにかくいやだということ、長い間苦しい思いをされておられる患者さんも沢山いますが、やはり正しい診断と、必要があれば根本的な治療に手術の詳しい説明を受けられることをお勧めします。